

韓国の“田舎”を歩く

そこには懐かしい風景がある
大韓民国の「生態首都」
順天湾沿岸を歩く

翻訳家・歴史研究家 金 容権

順天の広大な干潟

全羅南道の南端に位置する順天には「大韓民国・生態首都」という呼称が冠せられている。それは貴重な生態系が、人びとの暮らしと調和し、維持・保存されているトップの都だからだ。二〇一三年には世界庭園博覧会も開催される。

今も息づく唯一の古城—— 梁安邑城

順天は文字通り「天に逆らわない都市」である。論語に、「耳順」とは「耳順う」の意味であるとされているように、順天は「天に順う、逆らわない」の意味だろう。私なりに解釈すれば、天とは自然であり、自然とともに生きる都市ということになるだろうか。

順天は自然がよく保たれている都市であり、だからこそ人びとの自然に向ける目も優しく温かい。そして自然を守り育もうという力強い意思に満ちている。

順天には、渡り鳥を含め、韓国に生息する約四百四十種の鳥のうち、ちょうど半数の二百二十種が生息する。国外から飛来する稀少な鳥も少なくない。それは何よりも自然の恵みである豊富な糧があるからだ。奇